

上 京 区 基 本 計 画

～暮らしが息づき 伝統と文化の薫るまち～

進 捗 状 況 報 告 書

平成21年3月

上京区役所

目 次

はじめに	1
計画の位置付け・計画の全体構成	2
魅力ある上京創造構想（プロジェクト）	3
全体評価	6
構想別事業評価	8
構想1 成熟した市民文化のまちづくり	8
- 歩きたくなる上京づくりプロジェクト -	
(1) 貴重な歴史・文化の保存・継承	
(2) 歴史文化のみちづくり - 「上京歴史小路構想」	
(3) 京町家を活かした限界景観の創造	
(4) 伝統的なまちなみを活かした安全で快適なまちづくり	
(5) 区民の文化活動の振興	
構想2 にぎわい産業のまちづくり	19
- 「西陣」を活かした上京活性化プロジェクト -	
(1) 西陣機業の振興	
(2) 西陣ブランドを活かした観光地としての地域整備	
(3) 地域に密着した商業の展開	
(4) 地域の資源を活かした新しい魅力的な産業の創出	
構想3 自治と福祉のまちづくり	26
- 学区ふれあいコミュニティづくりプロジェクト -	
(1) 地域に密着した多世代健康のまちづくり	
(2) クリーンでグリーン豊かなまちづくり	
(3) 草の根自治のネットワーク	
(4) 上京区総合庁舎の整備構想の推進	
事業の推進と進ちよく管理状況	40

はじめに

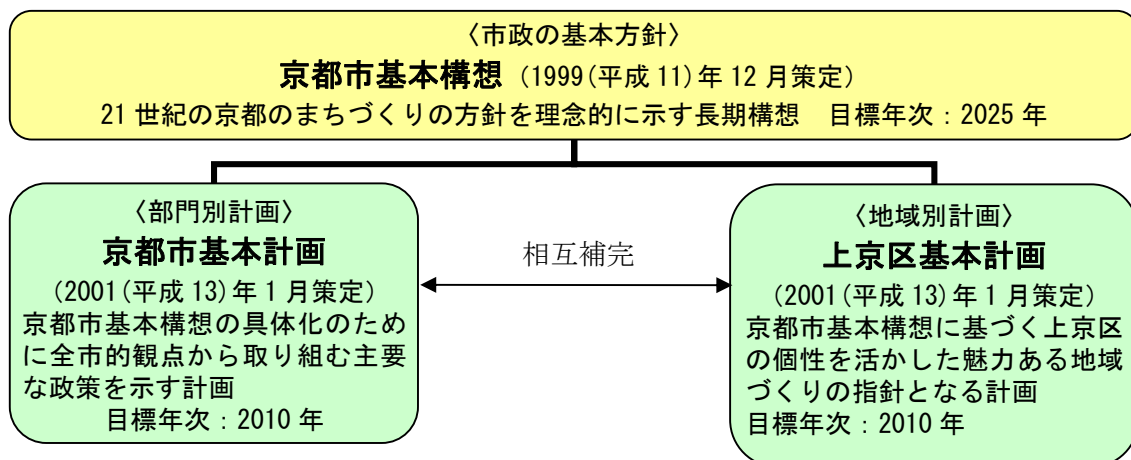
上京区では、区内の貴重な財産や個性を活かす21世紀の上京のまちづくりの指針となる上京区基本計画を平成13年1月に策定しました。この基本計画は、「暮らしが息づき伝統と文化の薫るまち」をまちづくりの基本テーマとし、大きな柱として「文化」、「西陣」、「ふれあい」をキーワードとする三つの構想の実現に向けて、2010年（平成22年）までの10年間に取り組む主要な施策・事業を掲げています。

これまで上京区では、この基本計画に基づき、区民の皆様の自主的な取組と行政との協働により、様々な取組を行ってきました。平成14年8月には基本計画の推進を図るための方策等を決定する中心組織として「人づくり ものづくり ふれあい上京21」推進会議を発足するとともに、推進会議で決定した内容を具体的に推進する組織として2つの部会を設置し、取組を進めてきました。

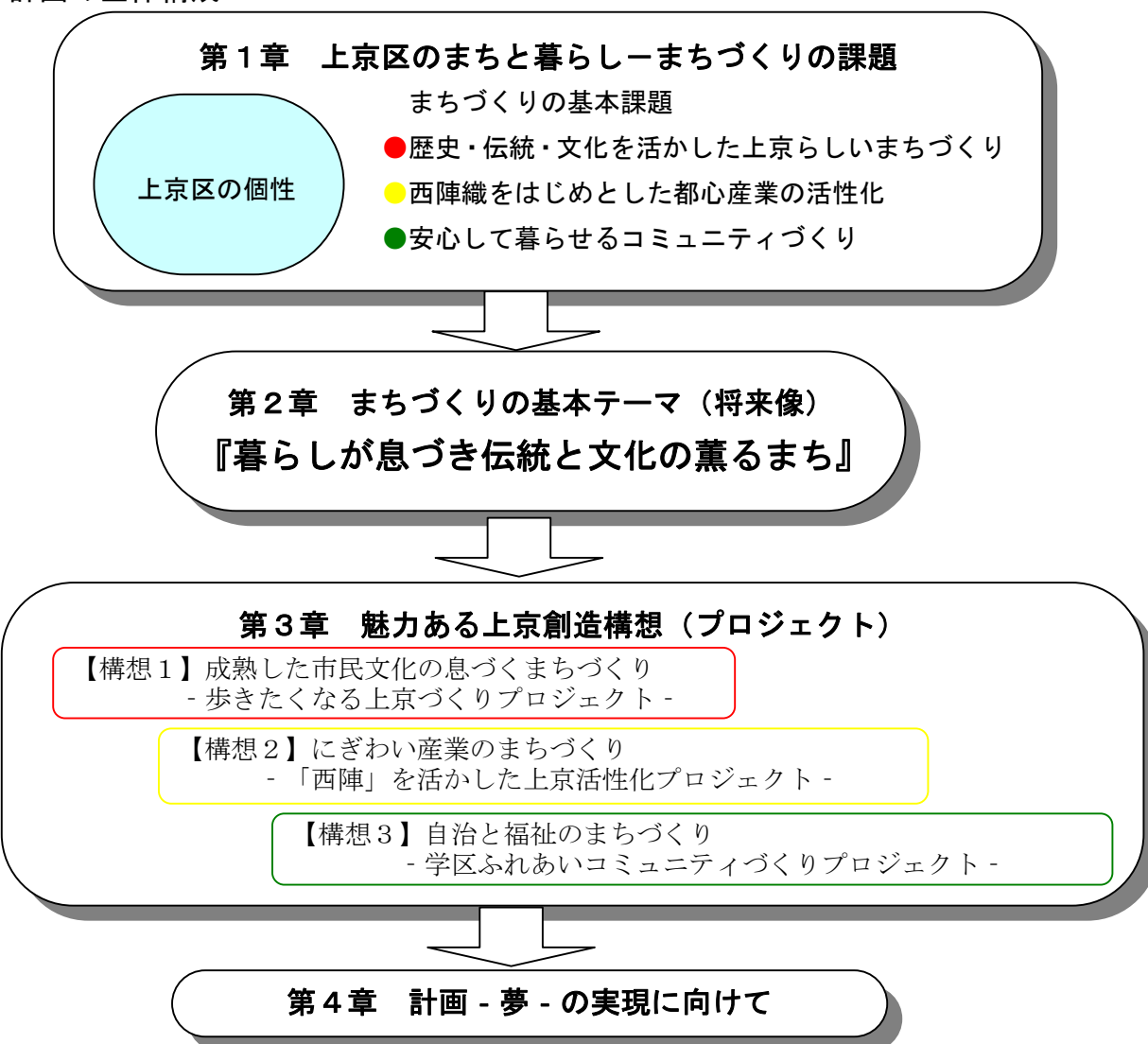
こうした中、現行の基本計画の目標年次である2010年まで残りあとわずかな期間となり、基本計画の進捗状況を総括するため、本計画に掲げる3つの構想に係る項目について取組状況と今後の課題をとりまとめました。

今後は、残された期間内における事業の効果的な推進とともに、これまでの本計画の取組状況の総括を踏まえて、2011年度を起点とする次期上京区基本計画の策定に向けた検討を進めて参りますので、区民の皆様の一層の御協力をお願いいたします。

計画の位置付け



計画の全体構成



魅力ある上京創造構想(プロジェクト)

上京区基本計画は、理想とする将来像の実現に向けて、区の個性を活かした魅力あふれるまちづくりを進める取組として、「魅力ある上京創造構想(プロジェクト)」において、様々な施策・事業を掲げています。

具体的には、「文化」、「西陣」、「ふれあい」をキーワードとした三つの構想の下に13施策、更にその施策の下に52事業を掲げています。

構想1 成熟した市民文化の息づくまちづくり 一歩きたくなる上京づくりプロジェクト

(1) 貴重な歴史・文化の保存・継承

区内に残されている貴重な歴史資源や文化財を保存・公開，区民による伝統行事等の継承

- 歴史的な建築物，史跡等の保存・継承
- 文化財の保存・継承，展示機能の充実
- 伝統行事等の保存・継承

(2) 歴史文化のみちづくりー「上京歴史小路構想」

豊富な歴史や文化を楽しみながら回遊できる，歴史のみちづくり「上京歴史小路構想」の推進

- 歴史・文化資源の紹介，身近にふれる機会づくり
- 歴史散歩・安心道路ネットワークづくり
- 堀川水辺環境整備事業の推進
- 安全で魅力的な公共交通等の整備

(3) 京町家を活かした界限景観の創造

伝統的な町家とまちなみの景観を保全し，新しいまちづくりに活かしながら，魅力的な界限景観の創造

- まちなみ景観の整備
- 伝統的な町家の保全・再生・活用促進システムの確立
- 上京にふさわしい新しい建築デザインの創造

(4) 伝統的なまちなみを活かした安全で快適なまちづくり

まちなみ景観を保全・継承しながら地震や火災への備えある安全・安心で快適な居住環境づくり

- まちなみ保全と結びついた防災まちづくりの推進
- 袋路の再生
- 防災施設，防災空間の確保

(5) 区民の文化活動の振興

伝統文化，様々な文化活動，芸術家との交流など，様々な交流を通じた新しい上京文化の創造

- 地域の歴史文化を活かした文化活動の充実
- 新しい上京文化の創造
- 文化活動の拠点づくり

構想2 にぎわい産業のまちづくり

－「西陣」を活かした上京活性化プロジェクト－

(1) 西陣機業の振興

西陣織の伝統技術を継承しながら、デザイン力等を活かした新たなマーケットの開拓、着物を着て楽しむ機会づくりを通じた需要の創出など

- 西陣織などの伝統技術・デザイン力の継承
- 西陣織のデザイン力の充実強化
- 情報通信技術（IT）の活用
- 新たなマーケットの開拓
- 着物を着て、まちなかを歩くことが楽しめるイベントの実施

(2) 西陣ブランドを活かした観光地としての地域整備

歴史文化を享受でき、人々の暮らしと調和した、魅力的なまちなか観光の拠点地域としての西陣地域一帯の環境整備

- 西陣織の歴史や上京の伝統文化にちなんだ新しい魅力集客施設の検討
- 関連した民間観光・商業施設の展開
- 西陣織を体験する体験型観光のソフト開発
- 観光駐車場の確保
- 情報発信
- 西陣織会館の活用・拠点化

(3) 地域に密着した商業の展開

商店街ごとの個性を打ち出した魅力ある取組の促進、高齢社会に対応した買い物サービスの充実など、区民の消費ニーズにきめ細かく対応した商業展開の支援

- 「上京」、「西陣」ブランドを活かした店舗展開
- 高齢社会を踏まえた商店街の新しい仕組みづくりと環境整備

(4) 地域の資源を活かした新しい魅力的な産業の創出

地域の様々な資源を活かした新しい活力ある産業の創出、町家を都市の新たな産業活動等の場とする多様な活用を促進

- 新たな都心産業の創出
- 町家の多様な産業活用の促進に向けた斡旋等の仕組みづくり

構想3 自治と福祉のまちづくり

－学区ふれあいコミュニティづくりプロジェクト－

(1) 地域に密着した多世代健康のまちづくり

あらゆる世代が健康でいきいきと暮らせるまちを目指し、区民ぐるみの健康づくり、高齢者福祉、子育て支援体制の充実など、区民ニーズに即した健康・福祉施策の推進。

- 福祉・保健・医療ネットワークづくり
- 学区を単位とした、きめ細かい個性的な福祉活動
- 若者からお年寄りまで、みんながボランティア
- 高齢者の生きがいづくり
- 総合的な高齢者福祉施設や身近な福祉施設の整備
- 健康づくりの拠点となるスポーツ施設の整備
- 高齢者や障害者の住居改善（バリアフリー化）
- 地域ぐるみの子育て支援
- 人口の受け皿として、若者や子育て層も住めるファミリー向けの住宅供給

(2) クリーンでグリーン豊かなまちづくり

区民ぐるみの環境保全を目指し、ごみ減量化や身近な緑化、公園整備等を通じた、美しいまちづくり

- 省資源・省エネルギーの推進
- 環境にやさしいまちづくり
- 区民ぐるみのまちの美化・緑化
- 高齢社会に対応した公園・オープンスペース等の整備

(3) 草の根自治のネットワーク

学区を基礎とした自治の取組の振興、新旧住民、地域と学生、学区間などの交流や広域的な交流など、様々な交流による草の根自治のネットワークづくり

- 人権文化の息づくまちづくり
- 学区自治組織の総合的なまちづくり活動の推進
- 新旧交流のコミュニティづくり
- 学区間の連携による新しいコミュニティ運営の仕組みづくり
- 学生と区民の交流・連携の仕組みづくり
- 区あるいは学区レベルでの国内・国外との草の根交流
- 学区のまちづくりを踏まえた、コミュニティの核としての小学校（跡地含む）の活用

(4) 上京区総合庁舎の整備構想の推進

各種行政サービスはもとより、各種交流機能など区民の自治活動の拠点ともなる区役所の総合庁舎化に向けた整備構想の推進

- 区民自治の拠点となる区役所の総合庁舎の整備

まちづくりの基本テーマ（将来像）

「暮らしが息づき伝統と文化の薫るまち」

魅力ある上京創造構想（プロジェクト）

構想 1 成熟した市民文化の息づくまちづくり

－歩きたくなる上京づくりプロジェクト－

構想 2 にぎわい産業のまちづくり

－「西陣」を活かした上京活性化プロジェクト－

構想 3 自治と福祉のまちづくり

－学区ふれあいコミュニティづくりプロジェクト－

1 区基本計画におけるまちづくりの課題

平成13年に策定された上京区基本計画は、上京区におけるまちづくりの基本課題の大部分が京都市全体に共通する課題でもあり、京都市基本計画の中で基本的な対応方向が示されていることを前提にしている。

したがって、区基本計画においては、区の個性を活かした魅力あるまちづくりを進めていくという視点から、課題とその解決策を「魅力ある上京創造構想（プロジェクト）」として整理している。具体的には、「文化」、「西陣」、「ふれあい」をキーワードとする三つの構想の下に13施策、更にその施策の下に52事業を掲げている。

2 区基本計画の性格と推進組織の役割

現行の上京区基本計画は、課題を解決するための具体的な事業内容を事業主体となるべき機関と協議を積み上げて策定した計画ではなく、理想の上京区を描き、そこに至る道筋を示す構想としての性格を有している。

また、その推進に当たっては、学識経験者及び区民代表による推進組織「人づくり ものづくり ふれあい上京21」が平成14年に設置されたが、その組織では、事業主体を決定したり、事業推進のための予算を配分する機能を有しているのではなく、進捗状況を把握し、推進方針を上京区役所に提言する役割を果たしてきた。

3 区政策提案予算システムの導入

区基本計画が策定された当時は、区基本計画推進のための予算を区役所が直接要求するシステムにはなっていなかった。そこで、平成16年度に区政策提案予算システムが創設され、区基本計画を推進するため、区長に実施権限がある事業については、区役所が直接予算を要求し執行するほか、各局に実施権限がある事業については、区役所から事業所管局に予算要求の実施を要請する制度が設けられた。

4 事業の推進

区役所が予算化できた事業については、区役所が直接事業を執行したり、推進組織で提言された具体策を検討する部会やふれあい事業実行委員会を活用して事業を執行してきた。一方、各局が事業主体となる事業については、平成16年度の財政非常事態宣言に表されるような厳しい財政状況のもと、区からの要請というよりも、京都市全体の課題解決という観点から、京都市基本計画第2次推進プランに基づく各局所管事業の推進に伴い、区基本計画に関連する事業についても推進が図られてきた。

その結果、区基本計画に掲げた52事業の内、上京区民又は区役所が事業主体となって参画した事業は24事業、その他は各局の事業として全て何らかの形で実施された。

5 次期区基本計画に望まれるもの

全事業に何らかの形で着手することはできたが、京都市基本計画に掲げられた市民共通の課題解決のための事業は、区基本計画推進組織の検討対象とならず、区民にとっては極めて関係が薄いものとなった。

また、区基本計画に掲げた事業についても、区が実施主体となる事業以外は、区基本計画推進組織が進捗を管理するのは困難な状況にある。

次期区基本計画を、理想とする将来像に向けて区民と行政が一体となって課題を解決するための事業計画とするためには、区民及び区内行政関係機関等による事業を中心に、策定当初より事業主体及び実施時期等の目標や成果指標等を区民参加により、明確にすることが必要である。

一方で、10年間の計画期間中に実施する事業を現時点で明確にすることは困難であるため、上位計画である「京都未来まちづくりプラン」や「京都市基本計画」の実施計画の見直しに合わせて、区基本計画の事業を追加、見直しすることが望ましいと考える。

◇構想別事業評価

構想 1 成熟した市民文化の息づくまちづくり

- 歩きたくなる上京づくりプロジェクト -

1 評価

5施策16事業全てについて何らかの形で着手されたが、区又は区民が関連する団体が事業主体として参画した事業は7事業であり、過半数を各局事業が占めている。

各局事業については、上京区基本計画の推進のために実施されたというよりも、市全体の課題として市基本計画の推進のために実施された事業が上京区内でも実施されたといえる。

地元団体主体の事業については定着してきているが、それぞれが個々に取組を推進しているため、個別の活動に止まっている状況にある。

今後は、区内の各種団体、NPO、関係機関などとの連携を密にし、活動をネットワーク化するような取組が必要である。

2 事業の進捗状況

(1) 貴重な歴史・文化の保存継承

区内に残されている貴重な歴史資源や文化財を保存・公開するとともに、区民による伝統行事等の継承を図る。

○歴史的な建築物、史跡等の保存継承

(主な事業)

文化市民局

- ・文化財の指定、登録の推進（平成13年度から19年度）

上京区内		13年度	19年度	全市
国宝	建造物	2	2	40
	美術工芸品	9	10	171
重要文化財	建造物	10	12	202
	美術工芸品	205	219	1621
市指定登録	建造物	10	10	91
	美術工芸品	21	23	209

- ・文化財情報ネットワーク発信（平成18年度～）市指定登録文化財ほか2項目

(取組状況と今後の課題)

本市では、市文化財保護条例に基づき、文化財の指定・登録を毎年行っており、指定・登録文化財は年々増加している。今後は、文化市民局が平成20年度から進

めている文化財保護支援組織を構築するとともに、市内を始め区内の文化財の保存・活用を図る取組を進める必要がある。

○文化財の保存・継承，展示機能の充実

(主な事業)

総務局

- ・歴史資料館における文化財の保存・公開（平成13年度～20年度）
企画展6回（全市），平成20年度来館者数 16,459人

文化市民局

- ・考古資料館における文化財の保存・公開（平成13年度～20年度）
企画展81回（全市）平成20年度来館者数 21,525人

(取組状況と今後の課題)

本市では、これまで歴史資料の収集・保存・研究や発掘調査により出土した考古資料の調査・収蔵・展示を各施設において行ってきた。引き続き、民家や社寺などに受け継がれている古文書の収集、保存や埋蔵文化財発掘調査により出土した文化財の保管・管理を行うとともに、展示・貸出等を行い、歴史資料としての活用や出土文化財の保存・活用の取組を推進する必要がある。

○伝統行事等の保存・継承

(主な事業)

教育委員会

- ・伝統体験学習（「京の雅探検隊」）の充実
（平成20年度 区内実施校：7小学校・2中学校）

(概要)

「京の雅探検隊」実施校

平成13年度	5小学校・1中学校
平成14年度	6小学校・1中学校
平成15年度	4小学校・1中学校
平成16年度	4小学校・1中学校
平成17年度	4小学校・1中学校
平成18年度	8小学校・1中学校
平成19年度	8小学校・1中学校
平成20年度	7小学校・2中学校

※ 平成20年度からは、「京の雅探検隊」は別事業と統合され、京の子ども「かがやき」創造事業と改称

(取組状況と今後の課題)

本市では、伝統と文化を理解し、尊重する子どもを育成するため、地域との連携を図り伝統文化を体験的に学習する「京の雅探検隊」を実施している。引き続き、区内に蓄積されている伝統と文化を理解し、尊重する子どもを育成するとともに、体験や宿泊などの課外活動を通じて豊かな人間性を育む必要がある。

(2) 歴史文化のみちづくり - 「上京歴史小路構想」

豊富な歴史や文化をゆっくと楽しみながら回遊できる、文化の薫り高い歴史のみちづくりを「上京歴史小路構想」と位置付け、細街路や堀川等を活かした安全な道路のネットワークを形成する。

○歴史・文化資源の紹介、身近にふれる機会づくり

(主な事業)

区役所

- ・区民ふれあい事業の実施（平成3年度～）
- ・「上京 - 史蹟と文化」の発行（平成4年2月～、年2回発行：8月・2月）
- ・区ホームページの開設（平成13年10月～、平成15年12月・平成19年11月リニューアル）
- ・上京区散策マップの発行（平成16年度～18年度）
- ・「歩きたくなる上京」歴史散歩の実施（平成16年11月～）
- ・上京歴史探訪館の開設・運営（平成17年10月～）

産業観光局

- ・観光案内冊子「おこしやす上京」の作成（平成13年度）
- ・観光案内図板、観光案内標識、名所説明立札の4箇国語（日・英・中・ハンダ）による整備
- ・ニューツーリズム創出事業による西陣ウォーキングツアーの支援
(平成20年度)

(概要)

上京区散策マップの発行

平成16年10月	「上京を歩く」	6,000部
平成18年2月	「上京を歩く 其の弐」	10,000部
平成19年3月	「西陣を歩く」	4,000部

上京歴史探訪館の開設・運営

築100年近くの町家を活用し、上京ならではの歴史や文化情報を収集・発信する「上京歴史探訪館」を区民、大学、行政の協働の下、平成17年10月に開館。平成20年3月末までに約5,800名を超える来館者を迎えている。

区民ふれあい事業実施状況（平成20年度）

区民ふれあいまつり	10月18日実施	新町小学校
	参加者	約4,000名
ふれあい史蹟ウォーキング	11月30日実施	京都御苑ほか
	参加者	約180名
ふれあい文化大学	12月2日実施	ホテルルビノ京都堀川
	参加者	約190名

（取組状況と今後の課題）

上京区では、これまで上京区文化振興会との共催により、区民に対して身近に伝統文化や芸能にふれる機会を提供してきている。引き続き、年間の恒例行事として親しまれている取組などを通じて、上京区の有する「歴史」「文化資源」により多くの区民が身近に触れ、その魅力を享受し、広く全国に発信していく取組を推進する。

○歴史散歩・安心道路ネットワークづくり

（主な事業）

建設局

- ・中立売通コミュニティ道路化（～平成12年度：烏丸～御池間678m）
- ・西陣大黒町の石畳舗装完成（平成13年度）
- ・電線類地中化促進（烏丸通，東堀川通，丸太町通，御所周辺）（平成14年度～）

区役所

- ・啓発活動（街頭啓発，パレード等）（継続）
- ・交通安全教室の開催（継続）
- ・区生活安全推進協議会設立（平成13年度）

（概要）

電線類地中化の推進状況（上京区内）

平成15年度	烏丸通（今出川西～上御霊前通）	1.80km	完成
	東堀川通（丸太町通～下長者町通）	0.50km	完成
平成16年度	東堀川通（下長者町通～中立売通東側）	0.38km	完成
平成17年度	烏丸通（今出川通～上長者町通）	0.55km	完成
	丸太町通（寺町通～鴨川南北側）	0.70km	完成
平成18年度	烏丸通（上長者町通～丸太町通西側）	0.75km	完成
	今出川通（烏丸通～御所前北側）	0.66km	完成
平成20年度～22年度	上七軒通における無電柱化の推進（約0.31km）		

（取組状況と今後の課題）

本市では、安全で快適な歩行空間の確保，市街地景観の向上等を図るため，電

線類の地中化を行ってきている。引き続き、都市景観の向上を図るため、電線類の地中化を推進する必要がある。

○堀川水辺環境整備事業の推進

(主な事業)

建設局

- 平成 13 年度 堀川水辺環境整備構想の策定
- 平成 14～15 年度 測量・調査・設計
- 平成 16～18 年度 紫明通・堀川通の新設導水路，親水施設整備，
賀茂川サイフォン工事
- 平成 19～20 年度 堀川開渠部河道整備，親水施設整備

(平成 21 年 3 月 29 日 堀川通水)

(取組状況と今後の課題)

本市では、市民が親しめる水辺環境を目指して、平成 9 年度から取り組んできた堀川水辺環境整備事業が平成 21 年 3 月 29 日に完了したところである。

○安全で魅力的な公共交通等の整備

(主な事業)

都市計画局

- ・軽量軌道公共交通機関(LRT)などの新しい公共交通のあり方の検討・調査
(平成 14 年度～16 年度)
- ・シンポジウムの開催 (平成 17 年度・18 年度)
- ・LRT 交通社会実験の実施 (平成 18 年度)

建設局

- ・放置自転車の撤去 (土曜撤去の実施)

区役所

- ・放置自転車実態調査 (烏丸・今出川交差点) 及び大学，関係店舗への要請行動の実施 (平成 20 年度)

(取組状況と今後の課題)

本市では、平成 21 年の夏を目途に公共交通優先の「歩くまち・京都」総合交通戦略を策定するため、「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会及び 3 つの検討部会を設置している。その中で、全市的な観点から、LRT 等の環境にやさしく利便性の高い未来の交通システムについて検討を進めている。

(3) 京町家を活かした界限景観の創造

区内に多く残されている伝統的な町家とまちなみの景観を保全し、新しいまちづく

りに活かしながら、上京にふさわしい個性的で魅力的な境界景観の創造を進める。

○まちなみ景観の整備

(主な事業)

都市計画局

- ・千両ヶ辻界わい景観整備地区、上京北野界わい景観整備地区、上京小川歴史的景観保全修景地区の指定（平成 13 年 8 月）
- ・都心部における町並み保全の推進、美観地区の指定（～平成 15 年度）
- ・御所美観地区の拡大（平成 15・16 年度）
- ・景観法に基づく制度の検討・活用（平成 16 年度～）
- ・町並み景観整備計画検討、住民説明（～平成 17 年度）
- ・違反広告物除却市民ボランティア「京・輝き隊」の活動（平成 17 年度～）
- ・西陣大黒町まちづくり協定（平成 12 年 1 月認定）の運用
- ・新景観政策の施行（平成 19 年度）

(取組状況と今後の課題)

本市においては、京都の景観を保全し、創出していくため、平成 19 年 9 月 1 日から地域の景観特性に応じた建築物の高さ規制やデザイン基準の見直しなどを盛り込んだ新景観政策を実施している。今後は新景観政策に基づく特色ある町並み景観を維持・保全していく必要がある。

○伝統的な町家の保全・再生・活用促進システムの確立

(主な事業)

都市計画局

- ・京町家なんでも相談開始（平成 13 年度～）
- ・京町家再生セミナーの実施（平成 16 年度～）
- ・京町家情報コーナーの設置（平成 16 年度～）
- ・景観重要建造物の指定（平成 17 年度～）
- ・京町家まちづくりファンド設立（平成 17 年度～）
- ・京町家に適した耐震診断手法等を整備（平成 18 年度）
- ・新景観政策の施行（再掲）
- ・京町家等耐震改修助成制度の実施（平成 19 年度～）
- ・京町家耐震診断士派遣事業の実施（平成 20 年度：区内実績 9 件）
- ・京町家実態調査の実施（平成 20 年度）

(概要)

景観重要建造物指定件数

本市では、歴史的な建造物及び伝統的な様式を有する建造物のうち、良好な景

観の形成に重要と認められるものについて、積極的に景観重要建造物の指定を行っている。

平成 17 年度 1 件（山中油店）、平成 18 年度 11 件（富田屋ほか）、
平成 19 年度 3 件

（取組状況と今後の課題）

本市では「京町家再生プラン」に基づき、（財）京都市景観・まちづくりセンターにおいて、「京町家再生セミナー」、「京町家なんでも相談」を実施するとともに、平成 17 年 9 月には「京町家まちづくりファンド」を設立した。

京町家の保全・再生に当たっては、これらの施策を積極的に活用していくことが必要である。

○上京にふさわしい新しい建築デザインの創造

（主な事業）

都市計画局

- ・町家型共同住宅設計ガイドブック発行（平成 6 年度）
- ・京町家ネットワークの推進（平成 14 年度～）
- ・京町家再生賃貸住宅制度の創設（平成 16～20 年度：平成 20 年度で終了）
- ・「京都まちなかこだわり住宅」設計コンペ（平成 17 年度）
- ・新景観政策の施行（再掲）

（概要）

京町家再生賃貸住宅制度の創設

民間事業者による賃貸住宅経営及びリフォームを誘導し、京町家の保全・再生及び都市居住を促進するため、京町家を賃貸住宅として整備する者に対して、整備に係る経費を一部補助する同制度を平成 16 年 10 月に創設。平成 17 年 12 月に上京区において最初の適用事例が完成（御所東団地）。

（取組状況と今後の課題）

（財）京都市景観・まちづくりセンターとの連携を深め、上京区にふさわしい建築物の整備を進める必要がある。

（4）伝統的なまちなみを活かした安全で快適なまちづくり

伝統的な町家とまちなみの景観を保全・継承しながら、地震や火災への備えのある安心・安全で快適な居住環境づくりを進める。

○まちなみ保全と結びつけた防災まちづくりの推進

（主な事業）

消防局

- ・自主防災リーダーの養成（平成 10 年度～）
- ・市民防災行動計画の策定（平成 12 年度～）
- ・京都学生消防サポーター制度の創設（平成 19 年度～）

都市計画局

- ・耐震改修助成制度（平成 16 年度～：木造住宅，平成 19 年度～：京町家等，平成 20 年度～：簡易改修）
- ・木造住宅耐震診断士派遣事業の実施（平成 20 年度：区内実績 5 件）
- ・京町家耐震診断士派遣事業の実施（再掲）

区役所

- ・上京区総合防災訓練の実施（平成 15 年度～）

（概要）

市民防災行動計画の策定件数

平成 20 年度 延べ 657 自主防災部（区内 683 自主防災部）

自主防災リーダー数

平成 10～20 年度 延べ 1,871 名

京都学生消防サポーター制度登録者数

平成 20 年度 13 名（同志社大学，同志社女子大学ほか 4 大学）

上京区総合防災訓練の実施

開催回数 年 1 回開催（平成 20 年 9 月 28 日 京都市立二条城北小学校にて）

参加者 地域住民と防災関係機関 約 500 名

（各学区自主防災会，消防団，上京消防署等）

訓練内容 避難，消火・救出・救護，炊き出しなど

〈参考〉火災発生件数の推移

	13 年	14 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年
京都市	326	330	298	272	275	256	231	198
上京区	17	17	21	16	15	11	10	7

（取組状況と今後の課題）

区役所においては，区民の災害対応能力の向上と防災意識の高揚を図るため，上京区総合防災訓練を毎年開催してきた。併せて，各学区においても防災訓練を実施し，防災意識の高いコミュニティづくりを推進してきた。今後においても，防災訓練等を通じて，安心・安全な居住環境づくりに努めていくことが必要である。

○袋路の再生

(主な事業)

都市計画局

- ・京町家耐震診断・改修支援制度の創設（平成 18 年度）
- ・京町家等耐震改修助成制度の実施（再掲）

文化市民局

- ・地域コミュニティの活性化に向けた方策の調整・検討（平成 20 年度～）

(取組状況と今後の課題)

京都市都市計画マスタープランにおいて、「袋路の再生」を都市計画の方針に明記。都心 4 区だけでも約 3000～4000 箇所と推定されており、上京区においても約 850 箇所と及んでいる。袋路を含めた市街地環境の再整備を目的に、平成 11 年に建築基準法が改正され、「連担建築物設計制度」により建替えが可能となっている。今後は、都心部での人口回復、高齢化対策、コミュニティ再生による都心活性化の観点から、袋路の再生に取り組む必要がある。また、文化市民局において、地域コミュニティの形成及び活性化を促進する条例の制定に向けた検討を進めている。

○防災施設、防災空間の確保

(主な事業)

消防局

- ・消防団器具庫耐震調査（～平成 16 年度）
- ・耐震型防火水槽等の整備（平成 16 年 4 月～20 年 12 月：上京区内 40 m³ 2 基 100 m³ 1 基）
- ・消防団に無線機整備（平成 15 年度～20 年度：上京区内 11 分団）

(概要)

耐震型防火水槽の整備

震災消防水利整備計画（平成 16 年度から 5 年間）に基づき整備

平成 17 年度 嘉楽中学校・100 m³

平成 19 年度 西町公園（仁和学区）・40 m³

平成 20 年度 京都まなびの街 生き方探求館（元滋野中学校）・40 m³

(取組状況と今後の課題)

区内の消防団に対する無線機の整備については着実に進展しており、一時避難場所についても自主防災部ごとに確保が進んでいる。また、区内全域の殆どが準防火地域に指定されている。

今後も、防災施設、防災空間の確保に向けた取組が望まれる。

(5) 区民の文化活動の振興

伝統文化にふれられる機会の充実，区民の様々な文化活動の振興や場の充実，芸術家と地域の交流など，様々な交流を通じて新しい上京文化の創造を目指す。

○地域の歴史文化を活かした文化活動の充実

(主な事業)

区役所

- ・上京茶会の開催（継続）

産業観光局

- ・「伝統産業の日」の取組（平成14年度～）

(概要)

上京茶会の開催（平成20年度）

開催回数	年2回（春・秋）
懸釜	春・表千家，秋・裏千家
実施日	6月15日，11月16日
参加者数	春 433名 秋 431名
主催	上京区文化振興会，上京区役所

(取組状況と今後の課題)

上京茶会については，上京区で培われてきた歴史や文化にふれ，親しむことを目的に，上京区文化振興会が中心に毎年開催しており，区内外においても関心は高い。今後も伝統文化にふれる機会として引き続き開催していく。

○新しい上京文化の創造

(主な事業)

文化市民局

- ・芸術文化特別奨励制度の創設（平成12年度～：平成13～15年度 各1件）

区役所

- ・上京薪能の実施（継続）

(概要)

芸術文化特別奨励制度の創設

本市において，新たな芸術文化の創造を促進し，京都の芸術文化の振興を図ることを目的に創設

（これまでの奨励件数）

平成13年度	1件（男性・現代舞踊）
平成14年度	1件（男性・現代美術・インスタレーション）
平成15年度	1件（女性・演劇）

平成 20 年度 1 件（女性・邦楽）

上京区に所在する府民ホールアルティにおいて奨励の成果を示す公演を実施

上京薪能の実施（平成 20 年度）

開催日 9 月 19 日

開催場所 金剛能楽堂

参加者 544 名

内 容 第 1 部 各社中による舞囃子・仕舞・琴演奏の発表

第 2 部 一流演者による舞楽・琴演奏・仕舞・舞囃子・狂言・能の披露

（取組状況と今後の課題）

本市では、「芸術文化特別奨励制度」を設け、新たな芸術文化の創造を促進し、京都の芸術文化の振興を図っている。また、上京薪能については、区民の方に上京区ならではの古典芸能の伝統の継承と区民との交流の場を提供している。今後もこのような制度や交流の場を通じて新しい文化の創造を目指す必要がある。

○文化活動の拠点づくり

（主な事業）

区役所

- ・上京区民文化フェスティバルの開催（～平成 15 年度）
- ・区民ふれあい文化大学の開催（平成 3 年度～）
- ・上京茶会の開催（再掲）

（概要）

区民ふれあい文化大学の開催（平成 20 年度）

区民が互いに交流を深め、様々な文化に親しみ、文化への関心を高めることを目的に開催。

開催日 12 月 2 日

開催場所 ホテルルビノ京都堀川

内 容 講演会「紫式部が生きた時代～上京の史蹟にふれて～」

講 師 臈谷 壽氏（同志社女子大学教授）

参加者 約 190 名

主 催 上京区民ふれあい事業実行委員会，上京区役所

（取組状況と今後の課題）

区民ふれあい大学については、区民の方が伝統文化や芸術に身近に、また、気軽に触れることができる場として開催している。今後も魅力ある内容にするため創意工夫を凝らし、引き続き開催していく。

構想 2 にぎわい産業のまちづくり

- 「西陣」を活かした上京活性化プロジェクト -

1 評価

区内の伝統産業である西陣織については、消費者の着物離れや需要減少、100年に一度と言われる世界的な経済金融危機により景気が急速に悪化する中、非常に厳しい状況にある。

区基本計画においても、区又は区民が関連する団体が事業主体として参画した事業は4施策15事業のうち5事業であり、3分の2を産業観光局の所管事業が占めている。

これらの事業については、上京区基本計画の推進のために実施されたというよりも、伝統産業課の事業として京都市の伝統産業における施策を推進する立場から実施されたと理解すべきである。

引き続き、関係機関との連携を図りながら、伝統技術の継承や新たなマーケットの開拓等、西陣機業の振興、西陣ブランドを生かした観光地としての地域整備等に取り組む必要がある。

2 事業の進捗状況

(1) 西陣機業の振興

西陣織の伝統技術を継承しながら、デザイン力等を活かした新たなマーケットの開拓を進めるとともに、着物を着て楽しむ機会づくりを通じた需要の創出など、多様な方法による西陣機業の振興を支援する。

○西陣織などの伝統技術・デザイン力の継承

(主な事業)

産業観光局

- ・京都市伝統産業技術功労者顕彰制度の実施（平成13年度～19年度区内35人）
- ・京都市伝統産業技術後継者育成制度の実施（平成13年度～19年度区内20人）
- ・工業試験場と染織試験場を統合し、産業技術研究所を設置（平成15年4月～）

(取組状況と今後の課題)

本市では、平成19年10月に「京都市産業技術研究所整備基本計画」を策定し、産業技術研究所の機能強化に向けた検討が行われている。当研究所との連携により、伝統産業における技術・技法を承継する人材の育成を図ることが必要である。

○西陣織のデザイン力の充実強化

(主な事業)

産業観光局

- ・ KYOTO PREMIUM 事業の実施（平成 17 年度～）

（取組状況と今後の課題）

本事業は、平成 17 年度から京都商工会議所や業界団体、府市等が一体となって、伝統産業のブランド価値向上や市場開拓に向けて取り組んでいるものである。「京都ブランド」を国内外に発信する機会となる本事業を積極的に展開する必要がある。

○情報通信技術（IT）の活用

（主な事業）

産業観光局

- ・ インターネットを利用した伝統産業製品の販売（平成 20 年度～）
- ・ 京都デザイン活用プロジェクトの実施（平成 20 年度～）

（取組状況と今後の課題）

情報通信技術を利用して、西陣織をはじめとした京都の和装産業が持つ優れたデザインを国内外に発信し、和装製品にとどまらない幅広い「ものづくり」への活用を促進する事業を産学公が一体となって事業を推進する。

○新たなマーケットの開拓

（主な事業）

産業観光局

- ・ 京都デジタルアーカイブ研究センターによる活動（～平成 15 年度）
- ・ 工業試験場と染織試験場を統合し、産業技術研究所を設置（再掲）
- ・ KYOTO PREMIUM 事業の実施（再掲）

（概要）

京都デジタルアーカイブ研究センターによる活動（～平成 15 年度）

- ・ 本市、京都商工会議所、関連企業等で組織
- ・ 異種工業製品への開発へとつながった染織デジタルアーカイブ・ビジネス等を実施（例：「友禅スタイル」水着の発売）

（取組状況と今後の課題）

本事業は、平成 17 年度から京都商工会議所や業界団体、府市等が一体となって、伝統産業のブランド価値向上や市場開拓に向けて取り組んでいるものである。「京都ブランド」を国内外に発信する機会となる本事業を積極的に展開する必要がある。（再掲）

○着物を着て、まちなかを歩くことが楽しめるイベントの実施

（主な事業）

産業観光局

- ・「伝統産業の日」の取組（再掲）

その他

- ・「京都・西陣夢まつり」の開催（平成7年度～）

（取組状況と今後の課題）

本市では、これまで「伝統産業の日」などの取組を通じて、多くの市民・観光客等に和装文化と着物の良さを身近に感じてもらうことができた。引き続き、こうした取組を市民・観光客等の参加機会につながる場として、実施していく。

（2）西陣ブランドを活かした観光地としての地域整備

全国的にも有名な「西陣」の地域ブランドを活かし、歴史文化を享受でき、人々の暮らしと調和した、魅力的なまちなか観光の拠点地域として、西陣地域一帯の環境整備を進める。

○西陣織の歴史や上京の伝統文化にちなんだ新しい魅力集客施設の検討

（主な事業）

その他

- ・（財）手織技術振興財団による「織成館」の開館（平成元年度～）

（取組状況と今後の課題）

区内においては、民間ベースではあるが、平成元年度に「西陣織屋建」を活かしたミュージアムとして「織成館」が開設され、西陣織をはじめ全国各地の手織物などが常設展示されている。今後も西陣織を始めとした上京の伝統文化の魅力を発信する取組が必要である。

○関連した民間観光・商業施設の展開

（主な事業）

その他

- ・（財）手織技術振興財団による「織成館」の開館（再掲）
- ・「西陣くらしの美術館 富田屋」（国登録有形文化財）の開設（平成11年度～）

（取組状況と今後の課題）

民間においては、「織成館」を始め、町家を活用した施設や喫茶店、ギャラリーなど、様々な形態で開設している。これらの町家風の建物を活かした観光の展開を図る必要がある。

○西陣織を体験する体験型観光のソフト開発

（主な事業）

産業観光局

- ・京の匠ふれあい事業の推進（平成 17 年度～19 年度体験教室参加校 延べ 9 校）
西陣織会館における実施日数 120 日

教育委員会

- ・伝統文化体験学習の充実（「京の雅探検隊」）（再掲）

（取組状況と今後の課題）

本市では、地域における伝統文化の体験的学習や、小学校等で技術者による制作実習等を行う事業を展開してきた。伝統文化の理解を深めるためにもこうした事業の継続は必要である。

○観光駐車場の確保

（主な事業）

都市計画局

- ・観光地におけるパークアンドライド等の推進（平成 13 年度～）

（取組状況と今後の課題）

本市においては、これまで、日本を代表する観光地である嵐山と東山地区において、観光シーズンのピーク期である 11 月に観光地交通対策（嵐山：平成 13 年度～、東山：平成 16 年度～）を実施している。また、市内都心部への自動車の流入を抑制するため、観光地交通対策の一環として平成 14 年度からパークアンドライドを実施している。平成 20 年度は、これまでの取組に加え、6 月に開催された G 8 サミット外相会合や年末年始の初詣に合わせ、市内周辺部の駐車場事業者と連携し、パークアンドライドを実施した。

上京区においては、幅員の狭い道路や袋路が多いため、車両の通行に適しないところも多いが、民間ベースでは、遊休地を活用した駐車場が設置されている。引き続き、本区においては、歩いて楽しいまち上京の実現に向けた環境整備を進める必要がある。

○情報発信

（主な事業）

産業観光局

- ・携帯電話を活用した京都界わい観光案内システムの開発（平成 14 年 3 月～）
- ・京都市ロケーション・ヘルプ・デスクの設置によるロケ支援（平成 16 年度～）

区役所

- ・散策マップ「西陣を歩く」の発行（平成 18 年度）

その他

- ・西陣織工業組合によるホームページの開設

(取組状況と今後の課題)

上京区では、地域団体と連携して、西陣地区の特徴であるものづくりや産業に着目して、西陣の魅力を紹介した散策マップを発行し、それを記念した講座を開催した。引き続き西陣の魅力の発信につながるホームページの充実や情報発信の推進が必要である。

○西陣織会館の活用・拠点化

(主な事業)

産業観光局

- ・「伝統産業の日」の実施（再掲）
- ・京の匠ふれあい事業の推進（再掲）

区役所

- ・人権月間のイベントや区民文化フェスティバルなど多彩な催し物等による活用

(取組状況と今後の課題)

上京区では、文化・芸能活動を通じて、区民相互のふれあいと区民の文化振興を目的として、西陣織会館を会場に区民文化フェスティバルを平成15年度まで実施してきた。今後は区民文化フェスティバルに代わるイベント等の開催や西陣織の魅力を発信する場として、西陣織会館の積極的な活用が必要である。

(3) 地域に密着した商業の展開

区民の生活を支える商業については、商店街ごとの個性を打ち出した魅力ある取組を促進するとともに、高齢社会に対応した買い物サービスの充実など、区民の消費ニーズにきめ細かく対応した商業の展開を支援する。

○「上京」、「西陣」ブランドを活かした店舗展開

(主な事業)

産業観光局

- ・商店街等環境整備事業の実施（平成13年度～19年度 区内実績144件）
- ・商店街等競争力強化事業の実施（平成13年度～19年度 区内実績9件）
- ・「おいでやす京の商い～京都市商業ビジョン2004～」の策定（平成15年度）
- ・商店街元気店舗創出事業の推進等（平成19年度～ 区内実績1件）

(取組状況と今後の課題)

本市では、商業振興施策の方向性と具体的なアクションプランを盛り込んだ「京都市商業ビジョン2004」を平成16年3月に策定した。上京区では歴史に培われてきた伝統や文化を活かした店舗展開が望まれる。

○高齢社会を踏まえた商店街の新しい仕組みづくりと環境整備

(主な事業)

産業観光局

- ・商店街等環境整備事業の実施（再掲）
- ・商店街等競争力強化事業の実施（再掲）
- ・商店街元気店舗創出事業の推進等（再掲）

(取組状況と今後の課題)

各種事業の活用により、引き続き高齢者等に配慮した商店街のバリアフリー化等の環境整備を進める必要がある。

(4) 地域の資源を活かした新しい魅力的な産業の創出

西陣機業をはじめとする地域の様々な資源を活かした新しい活力ある産業の創出を図るとともに、上京の空間資源でもある町家を都市の新たな産業活動等の場としても位置付け、多様な活用を促進する。

○新たな都心産業の創出

(主な事業)

総合企画局

- ・都心部小学校跡地活用の推進（継続）

産業観光局

- ・多彩なベンチャーの育成支援等（継続）
- ・企業立地促進制度の創設（助成制度の創設（平成 14 年度）、融資制度の創設（平成 15 年度））
- ・新・京都市企業誘致推進指針の策定（平成 20 年度）

(取組状況と今後の課題)

本市では、工場等の立地に対する支援策として、企業立地促進助成制度を活用し、市内での企業立地の促進及び京都経済の活性化を図っている。平成 20 年度には、「新・京都市企業誘致推進指針」の策定に合わせ、研究所・開発拠点の建設に係る助成の市域全域への拡大など、制度の拡充を図っている。本制度を活用し、企業立地支援を推進する必要がある。

○町家の多様な産業活用の促進に向けた斡旋等の仕組みづくり

(主な事業)

都市計画局

- ・京町家ネットワークの推進（再掲）

(取組状況と今後の課題)

(財)京都市景観・まちづくりセンターでは、京町家の歴史・特徴の紹介や再生・活用の事例紹介を行っている。京町家の改修に助成金を交付する「京町家まちづくりファンド」や「京町家なんでも相談」等を活用して、京町家の再生に向けた取組が必要である。

構想3 自治と福祉のまちづくり

- 学区ふれあいコミュニティづくりプロジェクト -

1 評価

上京区は、明治2年の番組小学校創設以来、学区単位の住民自治の歴史を有しており、現在も学区ごとに各種団体が特色ある様々な活動を展開してきている。

しかし、区基本計画においても、区又は区民が関連する団体が事業主体として参画した事業は4施策21事業の内12事業となっている。これは、上京区民にとって区民参加のもとに取り組むべき事業であっても、市民共通の課題は市基本計画の対象としたことにも関連している。

次期区基本計画を、区民自らが考え、行動する、区民主体の計画とするためには、区民及び区内行政関係機関等による事業を中心に、課題を設定していくべきである。

2 事業の進捗状況

(1) 地域に密着した多世代健康のまちづくり

あらゆる世代が健康でいきいきと暮らせるまちを目指し、区民ぐるみの健康づくりや高齢者福祉の充実、子育て支援体制の充実など、区民のニーズに即した健康・福祉施策を進める。

○福祉・保健・医療ネットワークづくり

(主な事業)

保健福祉局

- ・福祉相談システムの構築（平成18年度）
- ・福祉相談システムの運用開始（平成19年度）

消防局

- ・メディカルコントロール体制の充実（平成14年度～）
- ・応急手当の普及啓発（平成20年度：普通救命講習 80回実施、1,677名修了）

区役所

- ・各種検診、健康相談の充実（継続）

(取組状況と今後の課題)

本市では、福祉相談システムの構築など「京・地域福祉推進プラン」に基づき、地域福祉の推進を図ってきている。また、消防機関と医療機関との連携によるメディカルコントロール体制の充実や区民への応急手当の普及啓発により、更なる救命効果の向上を図っている。引き続き、市民に対する総合的な相談・支援のための体制の充実を図る必要がある。

○学区を単位とした、きめ細かい個性的な福祉活動

(主な事業)

保健福祉局

- ・健康すこやか学級の実施（平成 20 年度 実施箇所数 14 学区，実施回数 344 回）
- ・配食サービスの実施（平成 20 年度 実施箇所数 3 箇所，配食数 16,411 食）
（平成 21 年 2 月末現在）
- ・福祉相談システムの構築（再掲）
- ・福祉相談システムの運用開始（再掲）

(取組状況と今後の課題)

各学区における社会福祉協議会の取組は着実に進んできている。引き続き，関係機関との連携を図り高齢者の身近な地域における細やかな取組の支援を図る必要がある。

○若者からお年寄りまで、みんながボランティア

(主な事業)

文化市民局・保健福祉局

- ・京都市災害ボランティアセンターの開設（平成 18 年 4 月）

保健福祉局

- ・上京区ボランティアセンターの開設（平成 8 年度）
- ・京都市福祉ボランティアセンターの開設（平成 15 年 6 月）
- ・認知症あんしんサポーター講座の開催（平成 18 年度～20 年度：45 回 1108 人）

教育委員会

- ・「学生ボランティア」学校サポート事業開始（平成 15 年度～）（同志社大学，同志社女子大学等，市内外で 66 校参加）

区役所

- ・上京区災害ボランティアセンター覚書の締結（平成 19 年 10 月）
- ・上京区災害ボランティアセンター設置に係る協定締結（平成 21 年 3 月）

(取組状況と今後の課題)

これまで京都市社会福祉協議会を始め関係機関との共同で各種ボランティアセンターを設立し活動を展開してきた。引き続き，関係機関との連携を図り各種活動の拡充を図るとともに，区内に多く在住する学生の力を地域の活動に活かす方を検討する必要がある。

○高齢者の生きがいづくり

(主な事業)

保健福祉局

- ・京都市長寿すこやかセンターの開設（平成 15 年 6 月）
- ・シルバー人材センターへの支援（継続）
- ・老人福祉センターにおける各種事業の実施（平成 19 年度 センター延べ利用者数 37,600 人）

（取組状況と今後の課題）

老人福祉センターなど施設の利用者数は各種相談事業や教養講座等の実施により着実に伸びてきている。引き続き、利用者のニーズを把握し、事業内容を充実させるとともに、世代間交流事業を始めとする利用促進につながる取組を効果的に推進していく。

○総合的な高齢者福祉施設や身近な福祉施設の整備

（主な事業）

保健福祉局

- ・元小川小学校跡地に高齢者総合福祉施設等を整備（平成 14 年 1 月）
- ・仁和小学校敷地に高齢者福祉施設を整備（平成 15 年 8 月）
- ・元成逸小学校跡地に高齢者福祉施設を整備（平成 16 年 2 月）
- ・特別養護老人ホーム「つきかげ苑」開所（平成 16 年 8 月）
- ・町家風グループホーム「十四軒町グループホーム」開設（平成 17 年 3 月）
- ・特別養護老人ホーム「西陣憩いの郷」開所（平成 17 年 5 月）

（取組状況と今後の課題）

区内における高齢者福祉施設については、小学校跡地を利用するなど着実に整備を進めてきている。平成 21 年度に小規模多機能型居宅介護拠点と夜間対応型訪問介護ステーションを備えた「小川」の整備を予定しており、今後も社会情勢や市民のニーズを踏まえ、施設の充実・整備を進める必要がある。

○健康づくりの拠点となるスポーツ施設の整備

（主な事業）

文化市民局

- ・二条中学校グラウンドの夜間照明設備設置（平成 19 年度）

教育委員会

- ・上京中学校体育館耐震補強工事実施（平成 19 年度）
- ・翔鸞小学校耐震補強工事実施（平成 20 年度～21 年度）

（取組状況と今後の課題）

本市においては、多様な市民スポーツ活動のニーズに応えるため、各区 1 校の中学校グラウンドへの照明設備の設置を進めている。今後、夜間照明設備の整備及び地域体育館の整備については、既存施設の設置状況や住民のニーズを踏まえ

たうえでの検討が必要である。

○高齢者や障害者の住居改善（バリアフリー化）

（主な事業）

都市計画局

- ・高齢者向け優良住宅（地域優良賃貸住宅（高齢者型））の供給促進（平成12年度～：上京区内1棟）
- ・京都市すまい体験館による相談，セミナー等（継続）
- ・京都市あんぜん住宅改善資金融資制度（バリアフリーリフォーム融資）の実施（平成17年度～：上京区内1件）

（取組状況と今後の課題）

上京区における高齢者人口の割合は年々増加傾向にあり，市内では東山区に次いで2番目の高さとなっている。今後も，高齢化が更に進むことを踏まえ，バリアフリー化された賃貸共同住宅の供給や住宅の耐震化・バリアフリー化を促進するため，融資制度等のPRに努める必要がある。

○地域ぐるみの子育て支援

（主な事業）

保健福祉局

- ・「こどもみらい館」における絵本ふれあいボランティア養成（平成15年度～）
- ・地域子育て支援ステーション指定
(区内で10施設：公営保育所1，民営保育所7，児童館2)
- ・子育て支援活動いきいきセンター（つどいの広場）の開設
(平成17年度～：区内では，まちの縁側「とねりこの家」開設（平成19年度）)

教育委員会

- ・学校評議員制度（平成13年度導入）の活用による取組の推進（継続）
- ・学校ホームページの開設（継続）
- ・学校支援ボランティアのネットワーク化（継続）
- ・上京区「人づくり」ネットワーク実行委員会設置（平成14年度～）
- ・学校運営協議会の指定拡大（平成16年度～）
- ・「子ども安全会議」の設置（平成16年度～）
- ・「子ども110番のいえ」（平成9年度）の活用，市民パトロールの推進，「子ども安全見守り隊」の発足（平成18年度）
- ・KES環境機構登録事業所による子ども見守り活動（平成20年度～）
(上京区内取組参画事業所：2)

区役所

- ・「上京のこどもまつり」の開催（平成12年度～）
- ・生活安全推進協議会の設置，取組の推進（平成13年度～）
- ・上京子供支援センターだよりの発行（平成15年度～：発行部数：隔月600部）
- ・上京区子育てマップの作成（平成16年度）
- ・上京子ども支援センターのホームページ開設（平成20年8月）

その他

- ・学区における子育てサロンの実施（平成14年度～：区内実施11学区）
- ・区社会福祉協議会による上京チルドピアの開催（平成10年度～）

（概要）

上京のこどもまつりの開催（平成20年度）

家庭や地域，学校，児童施設などで安心して育つことのできる環境づくりに向け，区内24の関係団体等が地域ふれあいと子育てに関する情報交換の場を提供する。

実施日 11月23日

場 所 京極小学校

内 容 こどもを対象とした狂言教室，中学校吹奏楽部による合奏等

参加者 約5,500人

地域子育て支援ステーションの指定

目的 学区を単位とする身近な地域で，保育所及び児童館を「地域子育て支援ステーション」に指定し，これらの施設の子育てに関する知識や経験，主任児童委員等の地域の様々な人材やノウハウを活用。地域の育児力の向上を図るとともに，関係機関等と連携して児童に対する適切な援助，子育て家庭の支援を行う。

*区内の地域子育て支援ステーション設置状況

	施設名	設置年月
公営保育所	鶴山保育所	平成11年5月
民営保育所	信愛保育園	平成10年5月
	わかば園	平成10年5月
	せいしん幼児園	平成11年5月
	北野保育園	平成12年5月
	中立保育園	平成13年6月
	西陣和楽園	平成16年5月
	上京保育所	平成19年5月
児童館	西陣児童館	平成10年5月
	室町児童館	平成14年5月

子育て支援活動いきいきセンター（つどいの広場）の開設

平成 17 年 1 月に策定した新「京（みやこ）・子どもいきいきプラン」に基づき、「市民・地域ぐるみで子育てを支え合う子育て支援の風土づくり」に取り組んでおり、子育て中の親子の交流の場である京都市子育て支援活動いきいきセンター（つどいの広場）の開設を進めている。

上京区には、市内で 6 箇所目となる施設―まちの縁側「とねりこの家」―を平成 19 年 11 月 2 日に開設し、地域の子育てに関する情報提供や子育て講習会などを開催している。

（取組状況と今後の課題）

上京のこどもまつりは平成 12 年度から開催し、毎年、各種関係機関・団体、施設関係者等地域社会が協力し、乳幼児を始めとした子供の健全育成に向けた事業を展開している。また、「地域子育て支援ステーション」において、子育てに関する相談、情報収集・発信を展開している。今後もこれら事業の目的を踏まえ、引き続き子育て支援活動を実施していく。

○人口の受け皿として、若者や子育て層も住めるファミリー向けの住宅供給

（主な事業）

都市計画局

- ・特定優良賃貸住宅の供給促進（平成 5 年度～16 年度 上京区内 11 棟）
- ・高齢者向け優良賃貸住宅（地域優良賃貸住宅（高齢者型））の供給促進（再掲）

（取組状況と今後の課題）

本市では、これまで中堅向けファミリーや高齢者向けの優良な賃貸住宅の供給を促進してきている。今後は、より質の高い、ニーズに合致した優良賃貸住宅の供給に努める必要がある。

（2）クリーンでグリーン豊かなまちづくり

区民ぐるみで環境保全を大切に考え、行動するまちを目指し、ごみ減量化など日常生活の視点からの環境保全の取組や身近な緑化や公園の整備等を通じて、緑豊かな美しいまちづくりを進める。

○省資源・省エネルギーの推進

（主な事業）

総合企画局

- ・平成 23 年度までに環境家計簿 5 万世帯に拡大（平成 20 年度）

環境局

- ・地域ごみ減量推進会議の設立拡大（平成 10 年度～平成 20 年度：実績 12 会議）

- ・使用済みてんぷら油回収事業の推進（平成 9 年度～20 年度：236 拠点／全市拠点数 1,352 拠点）
- ・生きびん（リターナルびん）等の拠点回収開始（平成 16 年度～20 年度：8 拠点／全市 79 拠点）
- ・コミュニティ回収制度の創設（平成 16 年度～20 年度：登録団体数 160／全市 1,499）
- ・プラスチック製容器包装廃棄物の分別収集全市拡大（平成 19 年度）
- ・総合環境情報誌「京のごみ減量事典」市内全戸に配布（平成 18 年度）
- ・市民しんぶんの折込チラシとして「京のごみ減量事典追記版」を配布（平成 19 年度）
- ・市民しんぶんの折込チラシとして「京のごみ減量大作戦」を配布（平成 20 年度）

（取組状況と今後の課題）

区内における資源ごみの回収拠点については、住民のごみ減量・環境保護に対する意識の高まりもあり、着実に増加してきている。引き続き、地域のごみ減量推進会議を始め各地域のコミュニティ活動との連携を図り、実施団体の拡大を目指す必要がある。

○環境にやさしいまちづくり

（主な事業）

都市計画局

- ・木造住宅振興支援事業（平成 20 年度で終了）
- ・京町家なんでも相談（再掲）
- ・京町家再生セミナーの実施（再掲）
- ・京町家情報コーナーの設置・運営（再掲）
- ・京町家耐震診断士派遣事業開始（再掲）
- ・京町家改修助成モデル事業の実施（平成 18 年度～21 年 3 月：区内実績 8 件）

（取組状況と今後の課題）

景観は市民共有の財産であり、その景観の主な要素である町家等を保全・再生・活用することは、今後の京都全体のまちづくりにおいては、大きな意義がある。町家の減少を防ぎ、まちなみを再生していくための取組を景観・まちづくりセンターを始めとする関係機関等と連携を図り、推進していくことが必要である。

○区民ぐるみのまちの美化・緑化

（主な事業）

環境局

- ・まちの美化推進住民協定締結の促進（平成 9 年度～平成 20 年度 区内実績 48

地域)

建設局

- ・「区民誇りの木」の選定（平成 12 年度）
- ・保存樹の指定（平成 13 年度～17 年度：上京区内 4 件／全市 39 件）
- ・街路樹里親制度の創設（平成 18 年度）

教育委員会

- ・「花と緑のグリーンベルト」事業の推進（平成 8 年度～16 年度：上京区内 3 小・中学校）⇒「緑のカーテン」事業（平成 17 年度～）平成 20 年度実施校：6 小・中学校，5 幼稚園

区役所

- ・「みんなで花を咲かそう」活動ボランティアの取組（平成 19 年度～）
- ・上京区花いっぱい運動の推進（平成 20 年度～）

国の機関

- ・京都御所における自然観察会の開催（環境省）

(概要)

上京区「区民誇りの木」選定

平成 11 年度 推薦書等の募集期間（10 月 15 日～12 月 20 日）

推薦書等の応募数 221 通 192 件（160 本，32 群，53 種類）

平成 12 年度 選定数決定 110 件（85 本，25 群，39 種類）：6 月 5 日決定

全区で選定完了 総計 872 件

(取組状況と今後の課題)

本市においては，まち美化推進条例の制定や緑の基本計画の策定など，まちの美化・緑化は着実に進んでいる。引き続き，市民のまちの美化に対する意識の高揚を図り，緑あふれる良好な生活空間の創出を目指して，緑化の推進に取り組む必要がある。

○高齢社会に対応した公園・オープンスペース等の整備

(主な事業)

文化市民局

- ・地域コミュニティひろば整備プロジェクトによるちびっ子広場の再生（平成 10 年度～平成 13 年度：平成 11 年度さくら広場，平成 12 年度小川なかよし広場）

建設局

- ・桜井公園の開園（平成 14 年度）
- ・玄武公園，二条公園の開園（平成 16 年度）

(取組状況と今後の課題)

公園整備については，区民に親しみのある公園となるよう，計画段階からワー

クショップを開催し、地元住民の声を取り入れた整備を進めてきている。上京区においては、公園の全くない学区があり、未設置学区の解消に向けて引き続き取り組んでいく必要がある。

(3) 草の根自治のネットワークづくり

これまでの学区を基礎とした草の根レベルの自治の取組を一層振興するとともに、一人一人が認め合い、支え合う人権文化の息づくまちを目指し、新旧住民の交流、地域と学生との交流、学区間の交流、広域的な交流など、様々な交流を育み、草の根自治のネットワークを築いていく。

○人権文化の息づくまちづくり

(主な事業)

区役所

- ・憲法月間のつどい（継続）
- ・人権月間のつどい（継続）
- ・女性に対する暴力をなくす運動期間中にパネル展示等（平成15年度～）

(概要)

上京区では、区民一人ひとりが互いに尊重し合い、いきいきとした暮らしが息づくまちとなるよう、憲法月間（5月）及び人権月間（12月）において取組を推進している。

上京区憲法月間「映画のつどい」の開催（平成20年度）

開催日時 5月15日 午後2時30分～4時45分、
午後6時30分～8時45分

開催場所 同志社大学寒梅館ハーディーホール

内 容 映画「手紙」（原作：東野圭吾）の上映

参加費 無料

定 員 各800名

主 催 上京区ふれあい事業実行委員会、上京区地域啓発推進協議会

共 催 同志社大学今出川校地学生支援課

人権月間「講演のつどい」の開催

開催日時 12月11日 午後3時～4時40分

開催場所 同志社大学寒梅館ハーディーホール

内 容 講演会「元祖“オーロラ輝子”の親不孝人生！」（叶れい子）

参加費 無料

定 員 800名

主 催 上京区ふれあい事業実行委員会、上京区役所

共 催 同志社大学今出川校地学生支援課

(取組状況と今後の課題)

これまで人権文化を育む啓発活動として憲法月間及び人権月間において取組を進め、区民に人権について考える機会を提供してきており、多くの参加者を得ている。引き続き、区民一人ひとりが人権を尊重することの大切さを理解し、お互いに尊重し合う習慣が根付いた人権文化の構築を目指した取組を進める必要がある。

○学区自治組織の総合的なまちづくり活動の推進

(主な事業)

文化市民局・区役所

・「上京暮らしの工房」を元西陣小学校内に開設（平成 17 年度）

(取組状況と今後の課題)

本市では、市民が身近な場所でまちづくり活動ができるよう、「暮らしの工房」を開設し、市民活動団体に活動場所や市民活動の情報提供を行っている。引き続き、「暮らしの工房」における活動を継続し、市民活動団体の利用の促進を図る必要がある。

○新旧交流のコミュニティづくり

(主な事業)

文化市民局

・地域コミュニティの活性化に向けた方策の調整・検討（再掲）

都市計画局

・「京都市中高層建築物等の建築等に係る住環境の保全及び形成に関する条例」による取組推進（平成 17 年度～）

区役所

- ・区ホームページ（平成 13 年 10 月）や市民しんぶん上京区版（平成 8 年 1 月～）による地域情報の発信（平成 14 年度～）
- ・区民ふれあい事業の実施（再掲）

(概要)

市民しんぶん上京区版での取組

* 「ふれあいいっぱいかみぎょうのがつく」の連載

内 容 各学区で行われている特色ある行事を発掘し、その成果の紹介
掲載期間 平成 16 年 10 月号～平成 17 年 9 月号

* 「我が学区の身近な歴史舞台再発見」の連載

内 容 名所旧跡に加え、普段見慣れているものの中に息づく歴史にスポッ

トを当てることで学区の魅力を紹介

掲載期間 平成 18 年 11 月号～平成 19 年 11 月号

* 「思いつきり上京～地名・町名の由来～」の連載

内 容 区内の地名・町名の由来を切り口に各学区の魅力を発信

掲載期間 平成 20 年 10 月号から掲載中

(取組状況と今後の課題)

これまで市民しんぶん区版において、区民に地元について愛着と親しみを持てる企画として、学区を単位とした記事を掲載し、地域情報の提供を行ってきている。区内において、マンションを中心とした共同住宅が半数を占めるなど地域において、新旧住民の交流が図られにくい状況が生じている。今後は、地域コミュニティの活性化に向けた新旧住民の交流を図る仕掛けづくりが必要である。

○学区間の連携による新しいコミュニティ運営の仕組みづくり

(主な事業)

文化市民局・区役所

- ・新町小学校（中立・小川・滋野の3学区が統合）区域における取組の推進（継続）
- ・地域の安心安全ネットワーク形成事業の推進（平成 16 年度～：区内 11 学区で取組）

(概要)

上京区における地域の安心安全ネットワーク形成事業

学区（小学校区）単位で、地域住民（各種団体）と区役所、学校、警察署、消防署などの関係機関が連携して、防犯、防災、子どもの安全、地域福祉など幅広い分野で地域の安心・安全の確保に取り組むもの。

平成 17 年度～ 新町小学校区（中立・小川・滋野学区）

平成 18 年度～ 待賢，桃菌，仁和学区

平成 19 年度～ 乾隆，西陣，春日学区

平成 20 年度～ 成逸，京極学区

(取組状況と今後の課題)

これまで地域の特色を生かし、地域住民と行政関係機関が連携し、防犯、防災、福祉、健康、子どもの安全などに関する多様な取組を展開している。引き続き、全学区における取組の推進に向け、新規取組学区の拡充を図るとともに、これまでの取組の継続、学区間の連携を図っていく必要がある。

○学生と区民の交流・連携の仕組みづくり

(主な事業)

総合企画局

- ・大学地域連携モデル創造支援事業（平成16年度～，区内では平成17年度～20年度で3件採択）

文化市民局

- ・青少年市政参加推進プロジェクト「WACCORD」の取組推進（平成14年度～）

区役所

- ・憲法月間，人権月間における同志社大学との連携・協力（継続）

（概要）

大学地域連携モデル創造支援事業

内 容 本市が，(財)大学コンソーシアム京都と連携して，大学・短期大学や地域の団体から，大学と地域が一体となったまちづくりや地域の活性化を目的とする事業を募集し，選定のうえ助成するもの。

これまでの採択件数

平成17年度	1件（同志社大学文化情報学部鋤柄俊夫研究室）
平成18年度	1件（立命館大学産業社会学部乾ゼミ）
平成20年度	1件（ワークステーション佛大研究会）

（取組状況と今後の課題）

本市では，「大学のまち・わくわく京都推進計画」に基づき，(財)大学コンソーシアム京都と連携して，大学地域連携モデル創造支援事業を実施している。平成21年度からは，「大学のまち京都・学生のまちの京都推進計画」に基づき，本事業を充実させ，更に，大学・学生と地域との交流を促進し，地域の活性化を図る事業について支援していく必要がある

○区あるいは学区レベルでの国内・国外との草の根交流

（主な事業）

産業観光局

- ・京の山柘人工房事業におけるモデル工房の選定（平成17年度）

その他

- ・出町商店街振興組合による「鯖街道交流事業」の実施（継続）

（取組状況と今後の課題）

これまで区内において，学区又は商店街等を単位とした地域間交流を独自に実施してきている。今後も地域の活性化に向けたテーマ性を有する交流事業の継続は必要である。

○学区のまちづくりを踏まえた，コミュニティの核としての小学校（統合跡地も含む）の活用

(主な事業)

文化市民局・区役所

- ・新町小学校（中立・小川・滋野の3学区が統合）区における取組の推進（再掲）
- ・「上京暮らしの工房」を元西陣小学校内に開設（再掲）

教育委員会

- ・学校運営協議会の創設（平成17年度～20年度 上京区内7校・2園）

その他

- ・西陣まちづくり委員会（平成8年6月発足）による活動の取組
- ・西陣中央小学校（桃菌・聚楽・西陣・成逸学区）における「いのちの大学」の開講（平成19年度～：年間5回開催）

(概要)

上京区における学校運営協議会の設置状況（平成21年2月1日現在）

- 平成17年度 3小学校・1幼稚園
- 平成18年度 5小学校・2幼稚園
- 平成19年度 5小学校・1総合支援学校・2幼稚園
- 平成20年度 6小学校・1総合支援学校・2幼稚園

(取組状況と今後の課題)

本市では、学校・家庭・地域が共に行動し、子どもを育むために、地域住民、保護者、学識経験者等が参画する学校運営協議会を積極的に設置してきている。引き続き、設置校の導入を進めるとともに、学校を核とした地域コミュニティの推進を図る必要がある。

(4) 上京区総合庁舎の整備構想の推進

各種行政サービスはもとより、各種交流機能など区民の自治活動の拠点ともなる区役所の総合庁舎化に向けた整備構想を推進する。

○区民自治の拠点となる区役所の総合庁舎の整備

(主な事業)

文化市民局・区役所

- ・建設予定地の明確化、整備用地の確保に向けた取組（平成18年度）
- ・整備用地の検討（平成19年度～20年度）
- ・庁舎整備基本計画策定及び効率的最適手法調査（平成21年度）

(取組状況と今後の課題)

本市では、市民の利便性の向上、業務間の有機的連携によるサービスの向上、市民に親しまれる総合行政機関としての機能強化を図るため、区民部と福祉部、保健部を統合した区役所総合庁舎化を推進している。上京区総合庁舎については、

現地建替えを基本に,平成 21 年度に,区民参加のワークショップを開催するなど,区民の要望を反映した基本計画の策定を目指す。

◇事業の推進と進ちょく管理状況

1 人づくり ものづくり ふれあい上京21

上京区基本計画の推進を図るための方策等を決定する中心組織（平成14年8月設立）

(1) 組織構成

委員長 柿野 欽吾（京都産業大学経済学部教授）
副委員長 臈谷 壽（同志社女子大学名誉教授・平成21年4月～）
成瀬日出夫（上京区民代表）

委員 14名

顧問 4名

(2) 開催状況

第1回 平成14年8月1日 推進組織の設置，委員長・副委員長の選出等
第2回 平成14年11月26日 部会での取り組むべき課題の検討
第3回 平成15年2月6日 取り組むべき課題の提案，取組目的の検討
第4回 平成16年9月3日 各学区の特色ある行事・取組の検討
第5回 平成17年5月30日 上京歴史探訪館（仮称）基本構想について
「しみん文化部会」の設置と部会長の決定
部会の名称を「ふれあい上京21部会」に改称
第6回 平成17年9月7日 上京歴史探訪館の開設について
第7回 平成18年4月24日 各部会における取組の検討
第8回 平成19年2月7日 各部会における取組の検討
第9回 平成19年4月27日 各部会の取組報告，区運営方針・区基本計画の報告
第10回 平成20年3月17日 各部会における今後の取組に係る協議・検討等

2 ふれあい上京21部会

「人づくり ものづくり ふれあい上京21」の提言に基づき，上京区基本計画に掲げる構想3「自治と福祉のまちづくり」について具体策を検討（平成15年7月設置，平成17年5月改組）

(1) 組織構成（各学区から委員を選出）

部会長 成瀬日出夫（乾隆学区）
副部会長 廣瀬 賢治（室町学区）
亘 重好（京極学区）

委員 14名

(2) 開催状況

第1回 平成15年7月2日 部会長・副部会長の選出，取り組み課題の検討等
第2回 平成15年8月6日 ワークショップ形式による課題の抽出

第3回	平成15年10月3日	取組項目として「行事（ふれあい行事）」を選定
第4回	平成15年10月19日	「行事（ふれあい行事）」の具体化の検討
第5回	平成16年5月6日	「行事（ふれあい行事）」の活用方法の検討
第6回	平成17年11月8日	基本計画推進に係る取組経過報告・意見交換等
第7回	平成18年1月18日	新たな取組の検討
第8回	平成18年3月3日	「我が学区の身近な歴史舞台・再発見」の取組推進
第9回	平成18年6月21日	各学区の状況を踏まえた最適なテーマ設定を検討
第10回	平成18年8月11日	各学区におけるテーマ確定、発信方法の確認
第11回	平成19年2月21日	「我が学区の身近な歴史舞台・再発見」の取組継続
第12回	平成19年8月7日	上記取組のアンケート調査結果の検証、議論
第13回	平成19年12月14日	次期取組の決定（「地名・町名の由来」等）
第14回	平成20年7月18日	「思いっきり上京～地名・町名の由来」取組決定

3 しみん文化部会

「人づくり ものづくり ふれあい上京21」の提言に基づき、上京区基本計画に掲げる構想1「成熟した市民文化の息づくまちづくり」、構想2「にぎわい産業のまちづくり」について具体策を検討（平成17年7月設置）

(1) 組織構成

部会長 臈谷 壽（同志社女子大学名誉教授）
 副部会長 出雲路敬直（京都国学院講師）
 加藤 アイ（ボランティアひまわり代表）

委員 5名

(2) 開催状況

第1回	平成17年7月28日	副部会長の選任、運営組織の検討
第2回	平成17年8月10日	上京歴史探訪館運営協議会設置要綱等の決定
第3回	平成18年1月24日	上京歴史探訪館の事業実績を踏まえた意見交換
第4回	平成18年4月18日	上京歴史探訪館の事業報告、収支決算等の承認
第5回	平成18年7月27日	上京歴史探訪館の開館及びイベントに係る協議
第6回	平成19年1月19日	上京歴史探訪館の事業実績及び事業予定報告等
第7回	平成19年6月4日	上京歴史探訪館の開館及びイベントに係る協議
第8回	平成20年3月7日	上京歴史探訪館の事業計画等の協議・検討
第9回	平成20年9月24日	上京歴史探訪館の開館期間・曜日の検討
第10回	平成21年3月25日	上京歴史探訪館の事業計画等の協議・検討

4 上京区基本計画推進体制

(平成 21 年 4 月 1 日現在)

人づくり ものづくり ふれあい上京 2 1

～上京区基本計画の推進を図るための方策等を決定する中心組織（平成 1 4 年 8 月設立）～

委員長	柿野欽吾(京都産業大学経済学部教授)	成瀬日出夫(上京区民代表)
副委員長	臈谷 壽(同志社女子大学名誉教授)	太田保夫(上京区民代表)
委員	浅野啓子(上京区民代表)	奥野邦子(上京区民代表)
	内田秀一(上京東部医師会会長)	加藤アイ(上京区民代表)
	臼井健雄(西陣医師会会長)	高橋康夫(京都大学大学院教授)
	喜多泰弘(西陣千本商店街振興組合理事長)	廣瀬賢治(上京区民代表)
	礪波 修(西陣織工業組合副理事長)	山田行圓(茶道裏千家秘書次長)
	藤原信生(上京区民代表)	亘 重好(上京区民代表)
(顧問)	余根田 保(京都市南社会福祉協議会事務局長)	城戸信一(上京区保健協議会連合会会長)
	出雲路敬直(京都国学院講師)	村井康彦(京都市美術館館長, 上京区基本計画策定懇談会座長)
	高瀬博章(上京区自主防災会協議会会長)	(敬称略)

「人づくり ものづくり ふれあい上京 2 1」で提言された具体策を検討

ふれあい上京 2 1 部会

具体化検討する主な構想
『自治と福祉のまちづくり』

部会長	○成瀬日出夫(乾隆学区)
副部会長	○廣瀬賢治(室町学区)
	○亘重好(京極学区)
委員	川田雄司(成逸学区)
	高橋孝三(西陣学区)
	松本勝美(翔鸞学区)
	○浅野啓子(嘉楽学区)
	布下善一(桃菌学区)
	藤田美雄(小川学区)
	岡本洋明(仁和学区)
	○太田保夫(正親学区)
	古井明之(聚楽学区)
	○藤原信生(中立学区)
	○加藤アイ(出水学区)
	福本和子(待賢学区)
	立入嘉啓(滋野学区)
	小谷進一(春日学区)
	(敬称略)

○印は推進会議委員

平成 15 年 7 月設置, 17 年 5 月改組

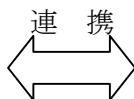
しみん文化部会

具体化検討する主な構想
『成熟した市民文化の息づくまちづくり』
『にぎわい産業のまちづくり』

部会長	○臈谷 壽(同志社女子大学名誉教授)
副部会長	出雲路敬直(京都国学院講師)
	○加藤アイ(ボランティアひまわり代表)
委員	鋤柄俊夫(同志社大学准教授)
	高橋孝三((財)西陣織物館元専務理事)
	○高橋康夫(京都大学大学院教授)
	○成瀬日出夫(人づくりものづくりふれあい上京 2 1 副委員長)
	山中恵美子(京・町家文化館副館主)

(敬称略)

○印は推進会議委員
平成 1 7 年 7 月設置



地元情報の収集
やイベント開催
等の際に連携
し、取組を推進
する。